

[畑・転換畑作部門]

6. 黒大豆「岡山系統1号」の枝豆生産の遅出しに適した栽植密度

[要約]

黒大豆「岡山系統1号」の枝豆生産において、7月に条間80cmで播種する場合、中旬であれば株間27cm、第5半旬であれば株間18cmで播種すると、慣行播種時期（6月中旬）と同等の商品莢重及び品質が得られる。

[担当] 作物・経営研究室、環境研究室

[連絡先] 電話086-955-0275

[分類] 情報

[背景・ねらい]

「岡山系統1号」の枝豆生産拡大とブランド化のためには出荷期間の拡大が必要である。播種時期を7月中旬まで遅らせると、収穫時期が7日程度遅くできたが、商品莢重が低下した。そこで、7月中旬以降の播種において、慣行播種時期（6月中旬）並みの商品莢重が確保可能な栽培法を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 「岡山系統1号」を、7月に条間80cmで播種する場合、中旬であれば株間27cm、第5半旬であれば株間18cmで播種することにより、6月中旬播種と同等以上の商品莢重を確保することが可能で、かつ、収穫時期も5～12日遅くすることができる（表1）。
2. 7月第5半旬に播種した場合でも、食味評価は良好であり、莢長の短縮も見られない。（表1、図1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本成果は、農業研究所の水田転換畑で機械収穫を前提とした試験の結果である。
2. 平成22年は、開花期後の高温・少雨の影響による落花・落莢により減収した。

[具体的データ]

表1 播種時期及び栽植密度が収量に及ぼす影響

年	播種時期	栽植密度 (条間*株間)	開花期	枝豆収穫日 ^z	商品莢重 ^y (g/m ²)	莢長 (cm)
H 21	(対照) 6月17日	75*45	8月7日	10月7日	969	6.4
	7月15日	80*27	8月20日	10月19日	1272	6.2
	〃	80*45	8月23日	10月19日	1009	6.5
	7月28日	80*27	9月3日	10月19日	665	5.6
	〃	80*45	9月3日	10月19日	492	6.0
H 22	(対照) 6月17日	80*45	8月4日	10月13日	663	6.2
	7月23日	80*18	8月29日	10月18日	885	6.1
	〃	80*27	8月29日	10月18日	689	6.2

^z 11mm以上の厚さの莢数が全莢数の概ね8割となった日

^y 莢厚11mm以上の重量

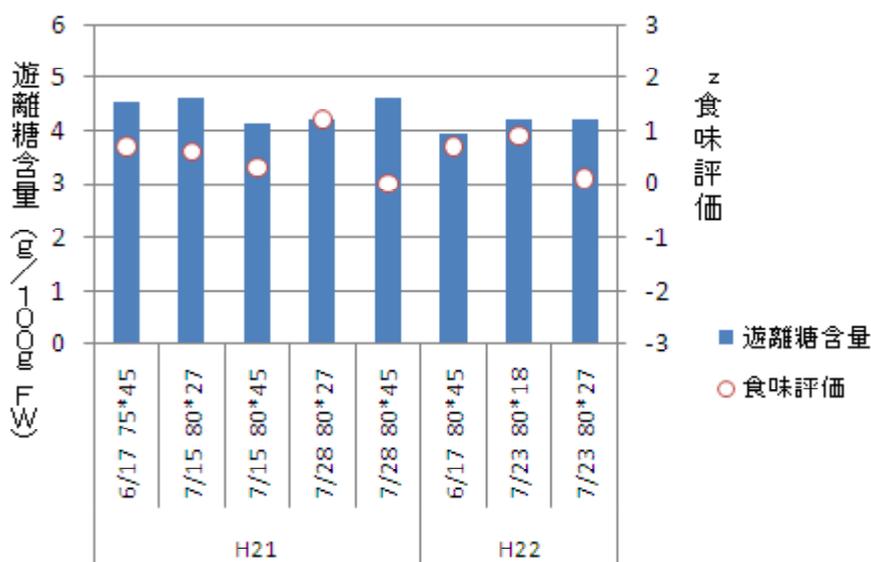


図1 播種時期及び栽植密度による遊離糖含量、食味評価

^z 30~41人のパネラーによる絶対評価で-3~+3の7段階評価
(+:おいしい、-:おいしくない)

[その他]

研究課題名：「おかやま黒まめ」の枝豆生産拡大技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2008～2010年度

研究担当者：妹尾知憲、宮武直子、井上智博、大久保和男、高野和夫、田村尚之

関連情報等：平成20年度試験研究主要成果、19-20